

山と川。 さつま町のかお。 四季のいろ。

さつま町の春は、福寿縁起のつるし雛「ささ福かざり」で始まります。春の陽気に花々がほころび、新緑が眩しくなるとホテルの乱舞が夏の訪れを告げてくれます。雨が続けば水の力を敬い、暑さの中ではせせらぎの音に癒されるのがさつま町の夏。青々とした田んぼが実りの秋には金色に変わり、収穫を終えて豊穡を感謝する頃にはそろそろ冬支度。紫尾の紅葉が雪景色へと変わるのを楽しみに、温泉でゆっくり温まりたい季節の到来です。いつまでも変わらずにいてほしい、さつま町の季節のいろ。なつかしいふるさとのいろです。

紫尾山

標高1,067m

さつまいろ
さつま町の観光・自然に
関するPR動画はコチラ!





川内川の水辺が見せる、

昼のかお。夕のかお。

清き水のめぐみが、ここにも。そこにも。

川内川が悠々と流れるさつま町は、水の恵みも豊富。山々に降り注ぐ雨水がゆっくりと湧き出て麓の田園地帯を潤し、生き物たちを育みます。江戸時代には、大規模な開削工事が行われ、川内川の水路を使って宮之城の上納米を運搬していました。現在では、水力発電(鶴田ダム)によるクリーンエネルギーも生み出しています。



轟の瀬

岩場に激流がぶつかり合う光景は迫力満点です。川内川沿いにある「とどろ公園」で見ることができます。ここは17世紀に舟を通すために開削されました。付近には与謝野鉄幹・晶子夫妻の歌碑もあります。



神子滝

轟の瀬よりも上流にあり、落差は7mほど。轟の瀬、曾木の滝(伊佐市)とともに「川内川三轟」のひとつに数えられています。天保13年(1842年)には轟の瀬と同様、開削されました。



鶴田ダム

昭和41年に完成した九州で1番高い重力式ダムで、コンクリート壁は高さ117.5m・長さ450mもの規模があります。近くには鶴田ダム公園もあり、ダムと大鶴湖(ダム湖)を一望できます。



川内川大鶴ゆうゆう館

鶴田ダムに隣接しており、発電の仕組みを学べる「発電展示室」、ダムの機能を川内川流域での河川激甚災害対策特別緊急事業を紹介する「川内川流域展示室」のほか、レストランや観光案内所機能も備えた複合施設となっています。



観音滝

3段の美しい滝で、観音様が現れたという伝説もあります。新緑や紅葉も美しく、季節によってさまざまな表情を見せます。周辺は「観音滝リゾート」として整備され、キャンプや川遊びも楽しめます。



北薩広域公園

川内川沿いにある広大な県立公園で、地域の自然・文化・歴史をテーマに整備されています。タケノコ掘りや炭焼きといった里山の暮らしを体験できるイベントも開催されています。また、天然温泉を備えるオートキャンプ場も人気です。

ホタル舞う、初夏の夕べ。

毎年5月中旬から6月上旬にかけて、川内川の兩岸を無数のホタルが飛び交います。シーズン中は神子地区のホタル大橋近く(奥薩摩のホタル舟)と、二渡水辺公園(二渡ホタル舟)の2か所からホタル舟が運航されます。舟から眺める幻想的な風景は、さつま町の初夏の風物詩。リピーターも多い人気のイベントです。



奥薩摩のホタル舟



二渡ホタル舟

奥薩摩のホタルを守る会
会長 栗野 明男 さん

2002年からホタル舟の運航を始め、それ以来、地区のみんなで力を合わせて作り上げています。この活動を通して、地域への愛着が深まったように思います。環境保全にも目を向けるようにもなりました。また、地区外や町外からも協力をいただき、交流の広がりも生まれました。しかしながら、2020年～2022年はコロナ禍の影響で運航休止。ホタル舟を絶やすわけにはいきません。まずは復活に向けて取り組んでいるところです。そして、未来へと残していく! 次の世代へとつなげます。

